

鹿児島県

1. 商品名等

商品名	まんぷく愛娘（あいじょう）弁当 2023	
	商品写真(イメージ等)	商品説明(コンセプト等)
		<p>21世紀に入り世界各国で資源不足が叫ばれています。これからは持続可能な社会づくりを意識して生活していかなくはなりません。そこでSDGsを意識した商品開発を行いました。商品開発の視点として、「1 規格外の食材の活用」「2 容器の簡素化」「3 包装の簡素化」「4 地域食材の活用」を取り入れました。</p> <p>地元のB級食材や未利用魚を中心に総菜のレシピを開発しました。また、イラスト作成ソフトを利用してラベルを作成しました。</p>

2. 学校紹介

学校名	鹿屋市立鹿屋女子高等学校	電話	0994-43-2584
住所	鹿児島県鹿屋市西原1丁目24番35号	FAX	0994-43-2585
担当者	新留 崇夫 (商業科)	野田 泉 (家庭科)	
URL	https://kanoyaghs.com/		
E-mail			

鹿屋女子高等学校は、鹿児島県大隅地区唯一の市立女子高等学校として昭和33年に開校しました。現在、普通科・情報ビジネス科・生活科学科が設置されています。情報ビジネス科は、資格取得とキャリア教育に取り組んでいます。卒業生の全商3種目1級取得率は約80%であり、平成25年から5年連続で全商9冠日本一となりました。また、キッズチャレンジフェスタやキッズビジネスタウン®などの小学生を対象にした地域貢献活動を行っています。令和2年3月には新校舎が完成し、部室棟やテニスコート、グラウンドも整備されました。ICT環境は県内トップクラスを備えており、平成27年には電子黒板やタブレット端末を活用した授業が展開されています。「総合選択制」の授業も特色であり、教科・学科の垣根を越えて、自分が学びたいものを学べる学習環境が整っています。

3. 実施科目等

科目名	課題研究(商品開発班)	単位数	2単位
対象生徒	20名(商業科・家庭科合同)	担当教員数	2名

4. 予算関係(費用)

- ・販売実習の交通費(5,000円×8名)
- ・商品開発の試作品材料費(20,000円×4回)
- ・商品パッケージの作成費用(40,000円)

※ 予算は、鹿児島県商の「令和5年度 商業の教育活動支援事業【活動支援事業】」を活用

5. 開発経緯等

高等学校学習指導要領（平成30年告示）では、科目「観光ビジネス」が新設され、地域と連携したキャリア教育に注目が集まっています。本校では、学習指導要領における「資格取得」と「キャリア教育」の実践に向けて、「金融教育カリキュラム」を作成し準備を進めてきました。本年度は、情報ビジネス科・生活科学科の合同課題研究コースを開設し、地域特産品を生かした商品開発を行いました。具体的には、地域産業界より講師を招聘して、RESAS（地域経済分析システム）を活用した消費者動向の分析と原価計算等の講義や実践的商品開発を実施しました。同商品は市場調査による改良を行い、デパートやネットショップ、各種会合やイベント等の仕出し弁当として販売を行いました。

開発スケジュール

- 令和5年4月 商品開発の協力企業の検討・決定
- 〃 日本観光学会と商品開発カリキュラムの検討
- 5月 市場分析・原価計算，商品企画
- 6月 商品（レシピ）開発
- 7月 商品（レシピ）開発・販売実習検討
- 8月 パッケージデザインの検討・完成
- 9月 商品（レシピ）完成・POP広告作成
- 10月 販売開始（デパートで販売実習を実施）



市場分析と原価計算



商品（レシピ）開発実習



販売実習

6. 販売形態・期間

④
・
無

株式会社イズミダ 「出水田鮮魚 本店」「出水田鮮魚 騎射場店」受注販売
鹿屋女子高校オンラインモール「<http://kanojyo.hsns.sfc-jpn.jp>」 受注販売

7. 協力者等

④
・
無

株式会社イズミダ

8. 商標登録の有無

有
・
無

— — —

9. 今後の課題・展望等

生活科学科と合同の商品開発のため、家庭科視点の商品開発を学ぶことができます。レシピ開発を行うため、本格的な商品開発となっています。しかし、予算の確保が厳しい現状です。毎年、学校外の支援事業に申請を行い、活動費を捻出しています。

学科間連携（合同）による課題研究のため、パフォーマンス課題やルーブリック評価、ポートフォリオの形式など、丁寧な打ち合わせが必要です。そのため、大学や短大等と連携協定を結び、学習内容だけでなく授業法などの教育理論の習得が必要と考えます。